

未来への活用： AI導入に関する プロティビティの調査

生成型人工知能 (AI) の台頭により、あらゆる業種、規模の組織が、経理・財務、サイバーセキュリティ、カスタマー・エクスペリエンスなど、様々なビジネスの機能や活動への AI の導入検討および実際の導入をし始めました。

プロティビティは、企業がデジタルトランスフォーメーションの一環として AI を活用する様々な方法、そしてこのテクノロジーがどのように新たな機会を生み出し、イノベーションと成功を加速させているかについて、いくつかのグローバル調査を実施しました。

ここでは、プロティビティの最新の AI 関連調査についてまとめています。

トップリスク — 取締役会メンバーと 経営幹部の視点

2024年の、世界中の1,100人以上の取締役および上級管理職を対象とした「トップリスクに関するエグゼクティブの視点」では、「AIのようなデジタル技術を十分に活用できる能力」が、(36のリスク課題のうちの)トップ10として挙げられています。取締役会メンバーと経営幹部の大多数(50%)は、新しいスキルが不足しているなかでの必要とされるデジタル技術の導入が、2024年に組織に大きな影響を与えるとしていました。

さらに10年先を見据えたときには、「AIのような新興技術がもたらす革新的イノベーションの急速なペース」を、2034年のリスクトップ10と評価しました。この問題に関してエグゼクティブたちは、破壊的なテクノロジーが自社の競争力や事業運営能力に影響を与え、事業モデルに大幅な変更を加えなければならない可能性を懸念しています。

実際、今から10年後のリスクに関する見解は、テクノロジーをテーマにしたものと、その延長線上にあるAI関連の問題が中心となっています。そして、そのなかには次のようなものが含まれます。

- サイバー脅威
- 人材不足のなかで新しいスキルが求められるデジタル技術の導入
- 既存のオペレーションとレガシーITインフラは、「ボーン・デジタル」の競合他社と同様に、期待されるパフォーマンスを満たすことができない。既存の業務やレガシーITインフラは、パフォーマンスの期待に応えることができず、『ボーン・デジタル』の競合他社に太刀打ちできない。
- マーケット・インテリジェンスを実現した生産性と効率性を高めるための厳密なデータ分析ができない。

50%

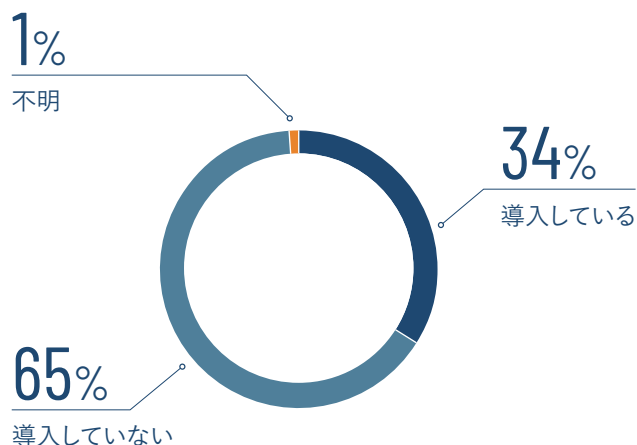
取締役会メンバーおよび経営幹部の50%が、新しいスキルが不足しているなかで、必要とするデジタル技術の導入が組織に大きな影響を及ぼすと回答しています。



CFO および財務リーダーの見解

多くの企業の財務部門において、CFOや財務リーダー達は、収益を増やし利益率を向上させるために生成AIの導入を進めることに注力しています。プロティビティの「2024年グローバルファイナンス動向調査」では、「TRANSFORM:CFOと財務リーダーの視点と今後の優先事項を評価する」で詳述しているように、CFOがAIを導入するさまざまな方法を探っています。

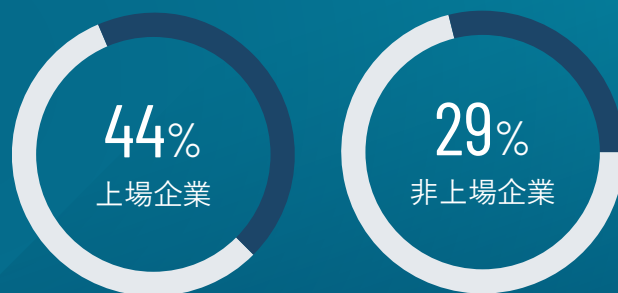
あなたの財務組織は現在、生成AIを導入していますか？



全体として、金融機関の34%が現在生成AIを使用していることがわかりました。注目すべきは、上場企業の方が、そうでない企業や政府機関よりもこのテクノロジーを採用していることです。具体的には、上場企業の44%が財務部門で生成AIを導入しているのに対し、非上場企業では29%にとどまっています。しかし、すでに多くの組織がAIのメリットを実感しており、5社に1社(21%)が、AIや機械学習を使ってコストと効率性に関する価値ある利益を享受し、財務プロジェクトを改善していると報告しています。

金融分野における生成AIの主な使用例としては、プロセスの自動化、財務予測、リスク評価と管理、経費管理、ポートフォリオの最適化などが挙げられます。生成AIを利用している財務部門のうち57%が、財務予測業務の一部として利用しています。

金融分野で生成AIを導入する組織



トップ・テクノロジー・リスクに関する 内部監査の見解

プロティビティが内部監査協会(The Institute of Internal Auditors)と共同で実施した「第12回グローバル内部監査の視点から見たトップ・テクノロジー・リスクに関する調査」では、回答者の大半(59%)が、今後2～3年の間に高度なAIシステムが組織に重大なリスクをもたらすとみています。調査によると、AIに関連するリスクとして最も認識されているのは、セキュリティとプライバシーの問題です。

驚くことではありませんが、AIは技術監査人にとって急速に重要な分野となっており、IT監査部門の約4人に1人(23%)がAIや機械学習ツールを使用しています。これは昨年の結果のほぼ2倍です。

AIと機械学習(生成AIを含む)

28% 脅威レベルは「高い」と認識

17% 組織の準備態勢は「高い」と評価

13% 技術監査の習熟度は「高い」と認識

今後12カ月間におけるAIに関連する最大のリスク

52%

セキュリティリスク
(ハッキング、敵対的攻撃、データポイズニング)

50%

プライバシーリスク
(データ悪用、同意違反)

42%

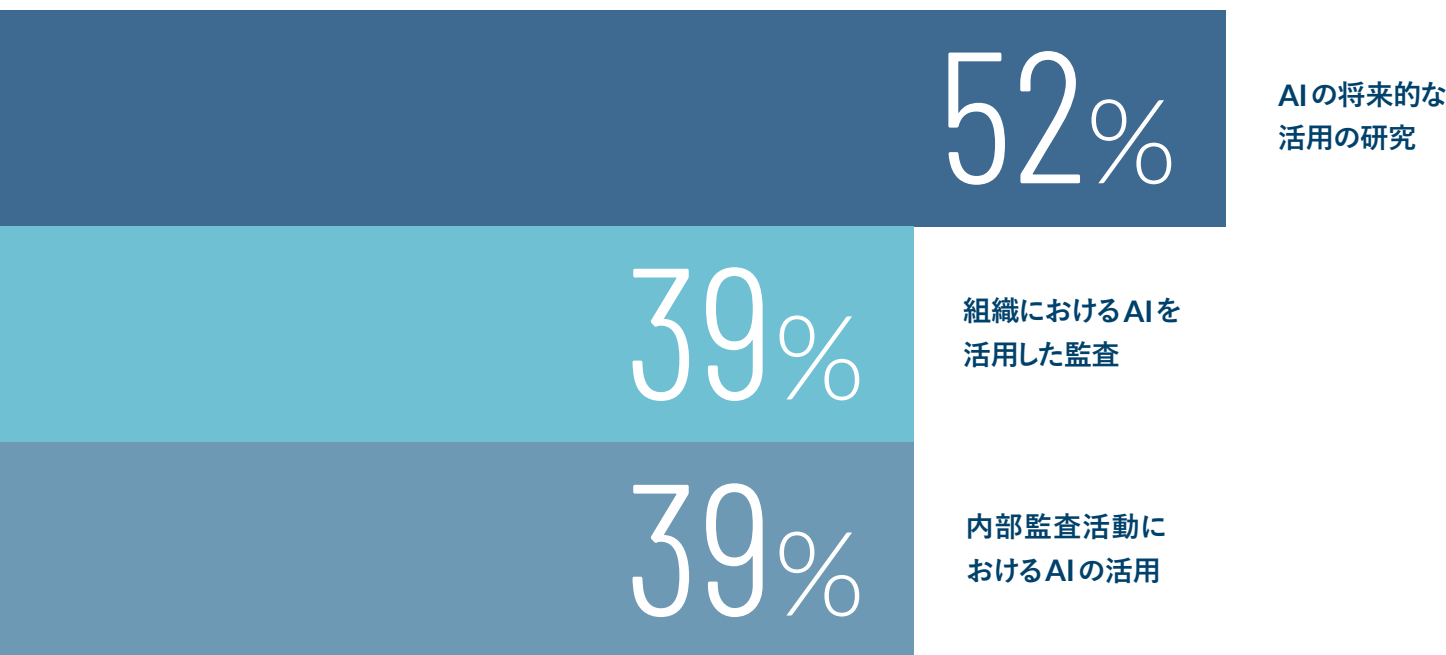
オペレーショナル・リスク(システム障害、エラー、ダウンタイム)

回答者は3つまでの回答を選択し、そのうちのトップ3を示しています。

また、この調査では、13の異なる技術的課題によってもたらされるリスクの認識レベルと、これらのリスクに対処するための組織の準備態勢、およびリスクを評価するための監査グループの習熟度を評価しましたが、生成AIを含むAIや機械学習に関連する組織のリスク認識と、それに対応する組織の準備態勢や内部監査の習熟度の間には大きな隔たりがあることが明らかになりました。

リスク認識と準備状況に隔たりがあるにもかかわらず、内部監査はAIの活用機会に高い関心を持っています。これにはAIの将来的な活用の調査(52%)、組織内でのAIを活用した監査(39%)および内部監査活動におけるAIの活用(39%)などが含まれます。

内部監査部門が関与するAI関連活動トップ3



回答者は3つまでの回答を選択し、そのうちのトップ3を示しています。

プロティビティについて

プロティビティは、企業のリーダーが自信をもって未来に立ち向かうために、高い専門性と客観性のある洞察力や、お客様ごとに的確なアプローチを提供し、ゆるぎない最善の連携を約束するグローバルコンサルティングファームです。25ヶ国、90を超える拠点で、プロティビティとそのメンバーファームはクライアントに、ガバナンス、リスク、内部監査、経理財務、テクノロジー、デジタル、オペレーション、人材・組織、データ分析におけるコンサルティングサービスを提供しています。プロティビティは、米国フォーチュン誌の働きがいのある会社ベスト100に10年連続で選出され、Fortune 100の80%以上、Fortune 500の約80%の企業にサービスを提供しています。また、成長著しい中小企業や、上場を目指している企業、政府機関等も支援しています。プロティビティはRobert Half (RHI)の100%子会社です。